九州地方

名前

問1　九州地方の中西部に位置し、東は宮崎県と大分県、北は福岡県、南は鹿児島県に隣接する県があります。この県の南西端に位置する沿岸部の都市で発生した、四大公害病の一つに数えられる公害病の名称と、その舞台となった都道府県名の組み合わせとして正しいものはどれですか。
（2020年 岐阜県公立入試 類似）

1. 四日市ぜんそく ― 三重県
2. 新潟水俣病 ― 新潟県
3. イタイイタイ病 ― 富山県
4. 水俣病 ― 熊本県

問2　宮崎市が位置する太平洋沿岸南部の地域で、冬でも温暖な気候となり、かつ夏から秋にかけて降水量が非常に多くなる主な要因の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2023年 福井県公立入試 類似）

1. 内陸の盆地による影響と、一年を通じて安定した高気圧の影響
2. 寒流である親潮の影響と、北西から吹く季節風の影響
3. 暖流である黒潮の影響と、湿った季節風や台風の影響
4. 対馬海流の影響と、日本海側特有の冬の季節風の影響

問3　九州地方の5県（佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島）における2014年の耕地面積の統計によると、佐賀県や熊本県では田の面積が畑の面積を上回っていますが、鹿児島県では全耕地面積に占める畑地の割合が突出して高くなっています。鹿児島県においてこのように畑作が盛んである主な理由として、土地の性質について説明したものを選びなさい。（2016年 岡山県公立入試 類似）

1. 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。
2. 山間部を切り開いた棚田が多く作られたが、近年の機械化に伴いその多くが果樹園へと転換されたため。
3. 有明海沿岸の干拓によって得られた土地が、塩分の影響で稲作よりも畑作に適していたため。
4. 筑紫平野のような平坦な低地が広がっており、排水作業を行って広大な畑地を確保しやすかったため。

問4　宮崎県では、農業産出額の約3分の2を畜産が占めています。このように宮崎県で肉用牛、豚、鶏などの飼育が盛んになった背景として、土地の性質に触れた説明として最も適切なものを選びなさい。（2024年 茨城県公立入試 類似）

1. 冬でも温暖な気候を利用して、家畜の飼料となる穀物を二毛作で大量に生産できる環境があったため。
2. 大消費地である東京から遠いため、野菜よりも保存や加工がしやすい畜産物の生産に力を入れた。
3. 平野部が少なく耕地面積が限られているため、狭い土地でも効率よく収益が上がる畜産業に特化した。
4. シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。

問5　九州地方南部に位置する鹿児島県では、火山噴出物が堆積して形成されたシラス台地が広く分布しています。この土地の「水はけが良すぎる」という性質を背景として、古くから稲作が制限されてきた代わりに発達した、鹿児島県の農業産出額の半分以上を占める主要な農業部門は何ですか。（2024年 山口県公立入試 類似）

1. 温暖な気候を活かした果樹栽培
2. 近郊農業による野菜栽培
3. 広大な土地を利用した畜産
4. 豊富な地下水を利用した稲作

問6　1970年代の大分県において、県内での雇用を増加させ、大都市圏への人口流出を抑える要因となった政府による都市開発の指定制度を何といいますか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 情報公開特区
2. 学術研究都市
3. 高度経済成長拠点
4. 新産業都市

問7　九州南部の鹿児島県では、山地が約70.6パーセントを占める一方で、台地の割合も約20.8パーセントと全国平均に比べて非常に高い特徴があります。この広大な台地が形成された背景として最も適切な説明を選びなさい。（2017年 滋賀県公立入試 類似）

1. 過去の火山活動によって噴出された火山灰や火砕流などの堆積物が厚く積み重なったため
2. 河川が山間部から平野部へ出る際に、運んできた土砂を扇状に堆積させたため
3. 火山の噴火によって地下のマグマが噴出し、山体の中央部が大きく陥没して窪地となったため
4. 海岸近くにおいて、風によって運ばれた砂が長い年月をかけて堆積し、丘状の地形を作ったため

問8　九州南部の鹿児島県などに広く分布する、過去の巨大噴火による火山灰などの噴出物が厚く積み重なって形成された台地を何と呼びますか。
（2020年 広島県公立入試 類似）

1. カルデラ
2. シラス台地
3. 扇状地
4. 三角州

問9　那覇市などの地方中心都市において、夜間の常住人口よりも昼間の人口の方が多くなる現象が見られます。ある統計によると、那覇市の夜間人口は約31.9万人ですが、昼間人口は約35.0万人に達しており、昼夜間人口比率が100%を大きく上回っています。このような現象が起こる主な要因として最も適切な説明を選んでください。（2018年 沖縄県公立入試 類似）

1. 周辺の市町村から、仕事や学びのために多くの人々が通勤・通学してくるため
2. 県外や海外から訪れる多くの観光客が、日中に市内の観光スポットに滞在するため
3. 中心部での地価高騰を避けるため、夜間だけ市外の宿泊施設を利用する人が多いため
4. 出生率が高く、年少人口の割合が他の市町村に比べて著しく高いため

問10　沖縄県の農産物において、県全体の栽培面積の割合を見ると、本島北部の東村が34%、石垣市が27%、国頭村が9%、名護市が8%を占めている果実があります。この果実の名称として正しいものを選びなさい。（2018年 沖縄県公立入試 類似）

1. マンゴー
2. パイナップル
3. スイカ
4. 紅芋

問11　沖縄県の海岸沿いで見られる、潮の満ち引きがある場所に生育する常緑広葉樹の集まりについて、波の衝撃を和らげる「天然の防波堤」としての役割を果たしている植物群の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. バナナ
2. マングローブ
3. サンゴ礁
4. なつめやし

問12　長崎県は複雑な海岸線を持つことから、入り江などを網で仕切って魚を育てる「海面養殖」が盛んです。2008年から2013年にかけて、長崎県ではぶり、まぐろ、ふぐなどの様々な魚が育てられていますが、これらと並んで生産額の多くを占めている代表的な魚種を選択肢から選んでください。（2017年 京都府公立入試 類似）

1. さけ
2. かつお
3. まだい
4. ほたてがい

問13　九州の複数の都市の産業構造を比較した際、第2次産業の就業者割合が他の都市より際立って高い都市に共通する要因として、最も適切なものはどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）

1. 医療や福祉などのサービス業に従事する人口が多く、高齢化社会に対応していること
2. 製造業に従事する人口が多く、特に自動車関連の工場が集積していること
3. 農林水産業に従事する人口が多く、食料品の加工が産業の中心であること
4. 金融業や保険業に従事する人口が多く、都市機能が高度に発達していること

答え合わせ・解説

問1	答え 4 水俣病 — 熊本県	熊本県は九州地方の中西部に位置する県で、その南西部の沿岸に位置する水俣市では、工場排水に含まれるメチル水銀が原因で水俣病が発生しました。これは日本の高度経済成長期に深刻な社会問題となった四大公害病の一つです。新潟水俣病は新潟県の阿賀野川流域、イタイイタイ病は富山県の神通川流域、四日市ぜんそくは三重県四日市市の石油コンビナート周辺で発生しました。
問2	答え 3 暖流である黒潮の影響と、湿った季節風や台風の影響	宮崎市などの太平洋沿岸南部では、暖流である黒潮（日本海流）が近海を流れているため、冬の寒さが和らぎ温暖な気候がもたらされます。一方、夏から秋にかけては、太平洋高気圧からの湿った季節風や、南から北上する台風の通り道にあたるため、非常に多くの降水量が記録されます。これに対し、親潮は北日本に影響を与える寒流であり、対馬海流は日本海側の気候に大きく関わる暖流です。
問3	答え 1 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県から宮崎県にかけての九州南部には、過去の火山活動による噴出物が厚く堆積した「シラス台地」が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、古くから稲作ではなくサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した畜産が発展してきました。これに対し、佐賀県などの平野部では水田率が高い傾向にあります。
問4	答え 4 シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。	宮崎県を含む南九州には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。シラス台地は水はけが良すぎて稲作には不向きであったため、古くから畑作や、広大な土地を必要とする畜産業が発展しました。現在では、宮崎県は肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）のいずれも全国有数の産出額を誇る「畜産王国」となっています。
問5	答え 3 広大な土地を利用した畜産	鹿児島県に広がるシラス台地は水持ちが悪く、大規模な水田稲作には適していませんでした。そのため、広大な土地を有効に活用できる畜産業が発展し、現在では肉用牛、豚、鶏の飼養頭数・羽数が全国屈指の規模を誇る日本代表的な畜産県となりました。統計上でも農業産出額の約65%を畜産が占めています。
問6	答え 4 新産業都市	政府は地方への工業分散を図り、過密・過疎問題を解決するために「新産業都市建設促進法」を制定しました。大分県（大分地区）はこの「新産業都市」の指定を受けたことで工業化が進み、県内での雇用機会が創出されました。この結果、高度経済成長の終わりとともに大都市への人口流出が減少し、地方における人口還流が促進されました。
問7	答え 1 過去の火山活動によって噴出された火山灰や火砕流などの堆積物が厚く積み重なったため	シラス台地は、約3万年前に発生した巨大な噴火活動に伴う火砕流などが起源となっています。この噴出物が広範囲にわたって厚く堆積したことで、現在の鹿児島県に見られる特有の台地地形が作られました。選択肢にある「陥没した窪地」はカルデラ、「土砂の堆積」は扇状地、「風による砂の堆積」は砂丘の説明であり、シラス台地の形成過程とは異なります。
問8	答え 2 シラス台地	九州南部には、火山の噴出物が堆積してできた広大な台地が広がっています。この地形は水分を保持しにくく水はけが非常に良すぎるため、古くから稲作には不向きとされてきました。その一方で、現代ではその広大な面積を活かした大規模な畑作や畜産業の基盤となっています。
問9	答え 1 周辺の市町村から、仕事や学びのために多くの人々が通勤・通学してくるため	県庁所在地などの中心都市には、官庁や企業、学校などが集中しています。そのため、夜間は周辺の住宅都市（ベッドタウン）で生活している人々が、日中になると「通勤」や「通学」のために中心都市へ移動します。この人々の「流入」により、中心都市では昼間人口が夜間人口を上回ります。一方、隣接する豊見城市のように、昼夜間人口比率が100%を下回る自治体は、住民が市外へ働きに出る「流出」側であることを示しています。観光客の移動は一時的なものであり、国勢調査に基づく昼間人口の定義（常住人口に入出管理される通勤・通学者を加減したもの）とは異なります。
問10	答え 2 パイナップル	東村や石垣市は、沖縄県特有の酸性の赤土（国頭マージ）が広がる地域であり、この土壌に適したパイナップルの栽培が大規模に行われています。特に本島北部の東村は「パインの村」として知られ、県内最大の栽培面積を誇ります。選択肢にあるマンゴーやスイカも沖縄で栽培されていますが、東村や石垣市が突出した割合を示すのはパイナップルの特徴です。
問11	答え 2 マングローブ	マングローブは、熱帯や亜熱帯地域の、海水と淡水が混ざり合う汽水域の海岸沿いに発達する植物群落のことです。常に葉をつけている常緑広葉樹であり、その複雑に絡み合った根の構造が、波のエネルギーを吸収・緩和して背後の陸地を守る天然の防波堤として機能しています。
問12	答え 3 まだい	長崎県は、リアス海岸などの入り組んだ地形や多くの島々という地理的条件を活かし、海面養殖が非常に盛んな地域です。特に「まだい」の養殖生産量は全国でもトップクラスであり、ぶり、まぐろ、ふぐ（トラフグ）といった市場価値の高い高級魚を組み合わせて生産することで、高い生産額を維持しています。
問13	答え 2 製造業に従事する人口が多く、特に自動車関連の工場が集積していること	製造業、特に自動車の組立や部品製造を行う工場が多数立地している地域では、直接生産活動を支える労働者が必要とされるため、第2次産業の就業者が集中します。そのため、卸売・小売業などの第3次産業が中心になりやすい県庁所在地などの他の都市と比較して、第2次産業の割合が相対的に高くなるのが特徴です。